

49	保護者の話を聴き思いを受け止め、様々な内容の相談・依頼に適切に対応している。	1	11	2
50	自園の保育について正しく理解し、保育内容その他について分かりやすく倫理的に説明できる能力がある。	2	6	6
51	常に保育に関する情報収集や技術向上を心がけ、専門家の自覚を持ってアドバイスできる。	2	5	7
52	内容により、保護者と園の双方の立場を理解し、必要に応じた適切なアドバイスができる。	2	8	4
53	保護者の気持ちを思いやり、その気持ちに沿った言葉がけができる。	6	7	1
54	相手の要望を正しく理解できる能力がある。	2	10	2
55	子どもの最善の利益を考慮し、保護者の気持ちを受け止め、保護者一人一人の自己決定を尊重することを理解している。	6	8	0
56	毎日の終わりに、職務を振り返り、反省点を記録することができる。	3	6	5
57	地域の子育て資源に関する情報について、保護者等からの問い合わせがあった際に対応できる。	0	6	8
58	手紙、公文書などの基本的な書き方を知り、誤字・脱字のない内容が正確に伝わる文章が書ける。	1	7	6
59	保護者、入所児童、また職場に関しての秘密は絶対に他言しない。	13	1	0
60	個人情報に関する書類の管理を適切に行い、外部へ持ち出さない。	14	0	0
61	児童虐待の防止に関して、保育園に与えられた早期発見・早期通報の役割について理解している。	9	5	0
○職員の資質向上				
62	相手に対して正対し、目をきちんと合わせ、あいさつや会釈等もきちんとできる。	10	4	0
63	保護者、来客に対して季節・時間に合わせた好感の持てるあいさつと会話ができる。	10	4	0
64	周囲の人や来客に清潔感を与える応対や身だしなみを実践している。	10	4	0
65	心配りのあるマナーやエチケットを会得し、励行している。	9	5	0
66	髪が顔にかかったり爪が伸びたりなど、不衛生にならないよう日頃より気をつけている。	12	1	1
67	電話が鳴ったら早く出るようにしている。電話の用件は間違いがないようメモに残し、確認や伝達を行っている。	9	5	0
68	夏のプール遊びは水着で一緒に入るなど、なるべく子どもの活動に即対応できる服装で保育する。	8	5	1
69	朝昼夜3度の食事や睡眠を十分にとり、勤務に支障をきたさない規則正しい生活を送っている。	10	3	1
70	体調不良のときは速やかに通院している。	10	4	0
71	日常生活で保育園職員としての度を超す言動をとらない。	10	4	0
72	セクシャルハラスメントや虐待など保育士にあるまじきことをしない。	10	4	0
73	保育園及び職員の不満を他言しない。	6	7	1
74	保育士としての生活、行事をこなし、毎日楽しく勤務している。	7	7	0

75	勤務開始時間の10分以上前に出勤している。	6	4	4
76	就業規則等、諸規則を理解し、規則を守る生活を心がけている。	9	5	0
77	業務遂行にあたっては、正確・迅速かつ、こまめに報告・連絡・相談を実践している。	9	4	1
78	自ら進んで職務を完全遂行する、積極的な姿勢がある。	4	10	0
79	上司の言葉を素直な気持ちで受け止めることができる。	12	2	0
80	小さなことでも、仕事上不安なことは上司に相談している。	8	5	1
81	自分の意見を話すだけでなく、相手の意見を偏見を持たずに聞くようにしている。	8	6	0
82	園の方針、活動の目的、または問題意識の共有などを職員間で共通理解し、協力できる。	7	7	0
83	職員間において常に報告、連絡、相談の体制が機能している。	6	7	1
84	連絡されたことを的確に記録している。	7	6	1
85	会議等で積極的に発言ができる。	4	5	5
86	「皆がやっているから」「以前からの慣例だから」という思いにとらわれない。	4	8	2
87	分からない場合は、その旨正直に伝え再認識をしている。	7	7	0
88	自分だけの不都合かどうか、客観的に考えることができる。	3	11	0
89	苦手な人こそ、その人の話を聞くように努めている。	5	8	1
90	自分以外の保育士等の担当業務内容を理解している。	6	5	3
91	保育に関する情報誌、専門書またはインターネットなどの外部情報を取り入れている。	3	11	0
92	指定された研修以外に、自分で知り得た研修への参加伺いができる。	1	3	10
93	自分の長所・短所が分かる。	6	7	1
94	先輩は後輩の見本となり、適切に指導することができる。	0	12	2
95	適切な助言をするために、全体の状態を見渡せる能力が身に付いている。またその時々保育の方向性(目的)を正しく理解している。	1	11	2
96	後輩は先輩の指導を素直に受け入れることができる。	8	6	0
97	後輩の職員、先輩の職員の垣根を越え、互いの長所・短所などの相互理解を深めるように努めている。	5	8	1
98	相手がどのような思いでその言葉を発し、行動をとったかを考えることができる。	7	7	0
99	困ったときは、互いに適切な援助をすることができる。	7	7	0
100	自分の受けた保育・子育てニーズに固執せず、現状に応じて柔軟に対応するよう心がけている。	6	8	0